

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	統合失調症患者における脳内ヘパラン硫酸プロテオグリカンの変化
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>1990年1月1日から2026年3月31日までに新潟大学脳研究所病理学分野で病理解剖され、ご遺族から、病理検体の保存とその診断・研究・教育使用について同意を頂いた統合失調症の患者さん、および神経疾患を持たない患者さんから各々10名程度です。</p> <p>研究責任者：新潟大学精神医学分野 江川純</p>
③概要	<p>脳内に存在し、神経の発達や神経活動を制御している分子であるヘパラン硫酸プロテオグリカンは、統合失調症の症状とも関連している可能性が示唆されています。</p> <p>本研究では、脳内のヘパラン硫酸プロテオグリカンと統合失調症との関連を明らかにするために、統合失調症患者さんの脳と神経疾患を持たない患者さんの脳を比較し、統合失調症患者さんの脳内におけるヘパラン硫酸プロテオグリカンの量的変化を調べます。</p>
④申請番号	2021-0236
⑤研究の目的・意義	<p>本研究により統合失調症患者さんの脳内におけるヘパラン硫酸プロテオグリカンの量的変化が示されれば、ヘパラン硫酸プロテオグリカンの機能解明や統合失調症の病因解明を目指した生物学的研究が促進されることが期待されます。</p> <p>今後ヘパラン硫酸プロテオグリカンの変化の病理学的意義が解明されれば、統合失調症の予防や治療につながる知見が得られる可能性があります。</p>
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2026年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	<p>診療録に保存されている患者さんの臨床情報を利用させていただきます。</p> <p>使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。</p>
⑧利用または提供する情報の項目	患者さんの死後脳組織とその患者さんの臨床情報(脳組織所見、年齢、性別、病歴に関する情報(診断、罹病期間、治療経過、服薬歴))
⑨利用する者の範囲	<p>新潟大学精神医学分野 江川純, 湯川尊行</p> <p>新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美</p> <p>新潟大学脳研究所腫瘍病態学分野 武井延之, 岩倉百合子</p> <p>新潟大学神経生化学 五十嵐道弘</p>
⑩試料・情報の管理について	本学：新潟大学精神医学分野 特任准教授 江川純,

て責任を有する者	
⑩お問い合わせ先	所属：新潟大学精神科 医局 氏名：湯川尊行 Tel：025-227-2213 E-mail：yukawa@med.niigata-u.ac.jp